

〔クリスマス・メッセージ〕

真実の すばらしいニュース



ケネス・メイナー

「フェイク（捏造された）ニュース」という言葉が世界中で取り上げられ、使われるようになりました。そのような偽りのニュースから、真実のニュースを見極める難しさは、古くから人が経験してきたことです。例えば、こんな「フェイクニュース」が世界で話題になりました。

「今年九月八日金曜日、アメリカで有名なお菓子、リーセスのピーナッツバターカップが、販売中止になると発表されました。『十月までに、商品棚から取り除かれます！』メーカーは、

呼ばれる惑星の軌道が地球の軌道と交差し、悲惨な結果を招く可能性が高いとの恐ろしい警告を発令しました（二〇二六年三月十日）という記事を掲載しました。こういうのもありました。

「今年九月八日金曜日、アメリカで有名なお菓子、リーセスのピーナッツバターカップが、販売中止になると発表されました。『十月までに、商品棚から取り除かれます！』メーカーは、このように偽りがあふれる時代にあって、完全に真実であるものがいったいこの世界に存在するのでしょうか？」

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてが起ったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

新商品の発売と、販売数の減少が原因であり、もはや製品の生産は不可能であるとしています。ハロウィーンまでは生産を続けたい意向でしたが、それもかなわないようです。私たちは、チョコレート菓子の金字塔に別れを告げなくてはなりません。安らかに眠れ、リーセスのピーナッツバターカップよ。完全になくなる前にぜひご購入を。」

また、こんなものも。十数年前、「ハリントン大学」という機関がありました。キャンパスは風光明媚な場所にあり、カリキュラムは生徒に優しく、（実際には授業は全くありませんでした）、博士課程はわずか数十万を支払えば、二十七日で取得可能。最終学歴の成績証明書も求められないまま、必要な経歴にふさわしい単位が与えられるというものでした。しかし、ハリントン大学は二〇〇三年に当局によって偽りの教育機関として閉鎖されました。偽大学は、偽の学士、修士及び博士号を売るオンライン上の大学で、実際には教室やキャンパスもなく、住所はルーミアニアに住む男性の家だったのです。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてが起ったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

もって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハネによる福音書3章16節）

神様は実にユニークな方法を用いて、神の独り子イエスを人間としてこの世に生まれさせることで、世界を救おうとされました。世界の外側からでなく、世界の中に存在することによって、救おうとされたのです。

神様は、クリスマスの日、愛の贈り物を下さいました。「世界が必要としているものは、愛である」という言葉は真実です。私には愛が必要で、あなたにも愛が必要です。あなたの伴侶にも、あなたの子どもにも、高齢者施設で一人椅子に座っている方にも、今日、愛が必要なのです。虐待されている子どもや、たった一人でも苦しんでいる子どもたちにも。

私たちが、神様が私たちに深く愛してくださっていることを感謝してクリスマスをお祝いします。神様はその愛によって、イエス様を贈り物として私たちに下さったのです。私たちがイエス様を信頼するならば、私たちの人生にある恐れを克服することができるようになります。クリスマスは、文字で表すならば、愛です。

私には、皆さんが、イエス様があなただけのためにお生まれになったという、この真実のすばらしいニュースを聞き、信じ、そしてあなたの人生に受け入れてくださるよう切にお祈りいたします。そうするならばあなたも、イエス様と共に生きることが経験できるのです。

〔インタビュー〕

「みつけ」て いただきました！

泉谷 千賀子さん



優しいまなざしの羊が表紙でほほえむ写真絵本『みつけたよ』は、昨年発行されて以来、キリスト教書店だけでなく、一般の書店でもほっこりとした反響を呼んでいます。



泉谷千賀子（いづたに ちかこ）さん
プロフィール

1961年、福島県生まれ。羊毛フェルト作家。昨年、神様の優しいまなざしの中で生きる動物たちによって表現された、写真絵本『みつけたよ』（いのちのことば社刊）を出版。大阪府在住。



羊毛フェルトの作品を作るきっかけは何ですか？

泉谷 冬になるとセーターを編んでくれた母の影響で、仕事が自然に大好きになりました。母の編んだセーターを着ていけば、風邪をひかぬと思えるほど、手作りのぬくもりを感じていました。

羊毛との出会いは、幼かった息子と行った牧場です。刈り取られたばかりの羊毛は、しつとりと油をおびていて化学繊維とは違う命を感じました。触れていると癒されました。

お母様から受け継いだ、大切な手作りのぬくもりですね。

泉谷 私は、福島県で生まれました。高村光太郎の『智恵子抄』で有名な、安達太良山が一番美しく見える環境で育ち、冬になると白鳥が飛来するような地域で、平和でのかな幼少期でした。

母は、クリスマスチャンでした

が、封建的な環境の中、ひっそりと信仰を守っていた、という印象です。その母の姿に多様な価値観の中に生きる術を学んだように思います。

今思うと、聖書の言葉とクリスマスチャンとしての生き方で育ててくれていました。ですから、神様はいつも共にいてくださいました。幼稚園と短大がキリスト教系でしたので、聖書や礼拝にも自然に触れていました。

では、小さい時からクリスマスチャンだったのですか？

泉谷 教会で洗礼を受けたのは、今から十一年ほど前です。ある時、つらいことがあって、本当にどうにもならなくなつて、だれかの腕の中にどきどきと倒れこんでしまいたい、と思っていました。そんな時に訪れたカトリックの教会で、マリア様が両手を広げて「さあ、おいで」と立っておられるのを見て、「私にはこし

かない」という決心がつかまなかった。それから、自分の家から通える今の教会に導かれて、洗礼を受けました。

その人生の課題を通して神様が引っぱってくださったのだと思います。どさどさと倒れこんだ私を神様が包みこんでくださったので、私は変わらないう現実を受け入れることができたのだと思います。

きつと、神様は、自分の意思で信仰をつかみ取るように、ずっと待っていてくださったのだ、と思いました。その頃、私を支えてくれた聖書の言葉は、

「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」（コリントの信徒への手紙一 12章9節）

クリスマスチャンになったことが今回の本の出版につながったのですか？

泉谷 神様の導きは本当には不思議です。私は、今大阪に住んでいるのですが、両親亡き後、年に一回、洋裁教室をしている姉と福島の実家で『姉妹展』を開いています。

二〇一一年、あの東日本大震災が起きました。親族の中で私だけが遠く大阪に住み、全く別世界に身を置いている状態でした。

ある時、私は真剣に親身になつて、ある友人に寄り添い慰めたつもりだったのですが、彼女は目に涙をいっぱい溜めて、「遠くのあなたに何がわかるのよ」と言いました。寄り添ったつもりでいても当事者になれない自分、第三者でしかない自分、自分も思いませんでした。

彼女は、私のことを思って

くれているからこそ、言ってくれたのだと思います。



彼女が吐き出してくれたことを、私は何かの形で世の中に発信していかなくてはいけない役割があると思いました。けれども、私には何もありません。献金でざるお金もないし、美しい歌が歌えるわけでもありません。それで、羊毛フェルトでチクタクと作った小さな作品を福島に送る、ということが続けるようになりました。

大震災の前に信仰を選び取ることができたから、どんな時も神様を仰ぎ、助けを求め導いていただけたのだと六年半経った今思います。震災の年にも作品展を開くことができたのは感謝です。

ある時、その作品展に、仮設住宅にお住いの女性がいらつしゃいました。そして、小さなマスコットを両手で握りしめて、ポロポロポロ、と涙を流されました。「これ、仮設の冷蔵庫の上に飾るのよ」と言つて……。その涙は私の中で乾いていないし、乾かしはいけない、と思つていま

す。その時はじめて、何かが動いたように思いました。きつとその方が心の中に閉じ込めていたものが解放されて、流

することができなかつた涙を流すことができたのだと思います。それから本当に誰かのために作りたいと思いました。自分のためという気持ちは、どこかへ行ってしまう。誰かが笑顔になってくれたら……と、私の生きる方向が変わりました。私は、彼女の中に、イエス様がいたのかな、と今でも思っています。

その後、キリスト教の出版社が主催する、ミニギャラリーに作品を出品させていたのだのがきっかけで、『みつけたよ』の発行に導かれました。

—大震災が、泉谷さんの人生の方向を変えたのです。

泉谷 はい。その時、聖書は遠い昔の物語ではない、と強く思いました。幼子イエスを抱きかかえて逃れた母マリヤも、紅海を渡るモーセも、荒野をさまよったイスラエルの民の四十年も、バビロンの捕囚と帰還も、すべて今日の前の現実なんだ、と感じました。私は、むさぼるように聖書を読みました。原子力発電所の廃炉は四十年かかると言われていますが、本当に長い道のりです。これからも聖書の言葉に養われながら歩みたいと思います。



葉に養われながら歩みたいと思います。 これまで

も、いろいろな災害がありました。いつも私は悲しみ、心を痛め、祈ってきたつもりでした。でも振り返ると、それはまるでテレビのチャンネルを替えるかのように気持ちを切り替え、自分の生活を手離さない傲慢な私でした。福島が大変なことになって、はじめて、自分の楽しみなんてどうでもよいと思いました。この時のために信仰に導かれていたのかと思うほどに、神様を近くに感じました。

—泉谷さんの作品には、なんともいえない優しさを感じます。どんな風に作られるのですか？

泉谷 とつても時間のかかる作業です。手にした人が、神様がいつも一緒にいてくださることに気づいてくれたらいいな、と思いながら作っています。作家さんによっては、効率よく量産される方もいますが、私は一匹一匹心を込めて作り、最後に目を入れて、「誰かを笑顔にしてね」と送り出しています。まだまだ未熟なお恥ずかしい作品ですが、至らぬ部分は触れてくださる方の想いと御手を添えてくださる神様の愛にお委ねして送り出しています。一針一針が全部祈りです。たった一つのオーナメントにも、たくさん



例えば、それが病院のベッドの柵にぶら下げられたなら、その人は、病室でクリスマスを迎えても一人ではない、と私は信じています。また、膝を抱えて悩んでいる少年や少女が、大好きなバッグにぶら下げてくれたら、きつと、「一人じゃないよ」という神様からのメッセージが伝わる

と信じています。

—クリスマスへの思いは何かありますか？

泉谷 小さい頃、母が話してくれたことです。若い頃、一生懸命働いて得たお給料で買った新しい靴をはいて、教会のクリスマススウィヴルに行つたそうです。ところが礼拝が終わって外に出たら、母の靴だけがなくなっていた。と。その話をしながら、クリスマスは喜んで嬉しく思う人だけのものではない、と教えてくれました。

また、私が学生時代の経験



ずっと大切にしているオーナメント

です。児童養護施設のクリスマススウィヴルの集いにサークルの仲間と出かける予定が、急な吹雪で交通機関はマヒしてしまいました。私は、集会中止の連絡を受ける前にバスに乗ってしまった、一日がかりで雪まみれになって施設にたどり着きました。すると、施設の方にまるで行き倒れの人を介抱するように受け入れていただき、癒されました。楽しい時をもっていただましよう、というおこがましい考えでいた私が反対に教えられました。クリスマスチャンになる前のことですが、本当のクリスマスとは何か、を神様が私にだけ、猛吹雪の中で教えてくださったんだと思います。



化させないように「福島の現実」を伝えてゆきたいと思います。私の頭の上の空も、福島の上の空も、日本の各地に避難している方々の上の空も、九州熊本の上の空も、中東の空も、青い空はどこまでもつながっています。決して下を向かず、天を仰ぎ、空の上には神様がおられることを感謝して、神様の栄光のために仕えてゆきたいと思えます。

神様は、人生のどの場面においても染み渡りするような方法で教えてくださいます。人生の所どころにそれを置いて、ある時気づかせ、今まで引っぱってきかせてくださいました。神様の本当に忍耐強い愛です。私に合わせて、ずっと見ていて、ゆつくりゆつくりと教えてくださっています。どれ一つ無駄はないし、それぞれの時になつたことが与えられるんだな、と思います。

—これからの抱負をお聞かせください。

泉谷 声や文字ではない、「感謝」の中で、羊毛フェルトにメッセージを込めて作ってみたいと思っています。遠く離れた関西に住む者として、今ここですべき事は何かのかわりながら、福島を風



生まれ育った福島の上の空

化させないように「福島の現実」を伝えてゆきたいと思います。私の頭の上の空も、福島の上の空も、日本の各地に避難している方々の上の空も、九州熊本の上の空も、中東の空も、青い空はどこまでもつながっています。決して下を向かず、天を仰ぎ、空の上には神様がおられることを感謝して、神様の栄光のために仕えてゆきたいと思えます。

普通のおばさんが急に世の中に出てきてしまつたので、いただいたお仕事で神様の御旨になつておられるのなら、目の前のことに精一杯取り組んで、良いものを神様にお献げしていきたい、と思つてい

『みつけたよ』に出てくる

のは、一人ぼつちの羊さん、小さな雀さん、まだ自信のないロバさんたちです。「誰かが笑顔になってくれたらいいな」というつもりでつくった本でした。でも、できあがつてみたら、実は、私が小さな羊であり、雀であり、何もできないと思つていたロバだったことに気がつきました。「私が見つけられたんだな、神様は『みつけ』てくださったんだな」としみじみかみしめていきます。ですから、これから神様のご用のために生きていこう、と。

私の友人、仮設住宅の女性編集者、たくさんの方々の出会いを通して、「神様に『みつけ』ていただいた」と思っています。

主は人の一歩一歩を定め御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。(詩編37編23、24節) (日本キリスト教団 千里聖愛教会所属)

